

学校関係者評価委員会報告

< Report from the College Evaluation Committee >

本委員会では「学校機能評価規程」に基づき活動を行ってきた。この数年で自己点検評価と学校関係者評価委員会を軸に、年間の PDCA サイクルが回るようになり、教育の質向上・業務改善に結びつけている。

1. 学校機能評価委員会の取り組み

- (1) 学校関係者評価委員会（6月・1月）を実施して外部委員の方々との意見交換を行った。学校関係者評価委員会報告については別途報告書をまとめ公開している。
- (2) 2025年度の重点項目と担当者を決めて改善に取り組んだ。第2回委員会を前に進捗状況の確認を行い、年度末に各担当者が取り組み状況報告書を作成することにより成果を検証したので以下に記載する。

2. 2025年度重点項目への取り組み成果

(1) 定員充足

理学療法学科は25名（定員40名）、作業療法学科は14名（定員30名）と定員充足には程遠い結果となった。

出張オープンキャンパス等を複数回実施したことで来校者数は大幅に増えたが、その分歩留率が2割～3割と激減した。年度末のオープンキャンパスで内容の刷新を図り、ある程度の手応えをつかむことができたため、次年度は学科で連携を取って体系的なオープンキャンパスの実施をする。

(2) 国家試験合格率100%達成、国家試験対策教育の充実

第61回国家試験では、理学療法学科28名中23名合格（合格率82.1%）、作業療法学科16名中14名合格（合格率87.5%）であった。早期の個別指導やeラーニングシステムを活用した受験対策を実施してきたが、十分な成果には結びつかなかった。今後は、早期からの国家試験対策学習に加え、模擬試験等を活用して精密に学習到達度を把握し、弱点補強できる個別指導体制を充実させる必要がある。そのため、教員は指導方法を常に見直し、改善できる体制を構築する必要がある。

(3) 教育の質向上

ICTを活用した授業や個別学習指導の強化を図り、YICリハセミナーといった独自の企画も計画通り実施できた。一方で、取り組みが実施に留まり、教育効果の検証や教育の質評価が不十分であったため、次年度以降は教育成果が検証できるように活動を展開していく。

(4) 国際交流

釜山カトリック大学（Catholic University of Pusan : CUP）の学生10名と教授1名が2025年7月に来校した。理学療法学科3年（24名）が4日間に渡り、学術交流を含め、多彩な交流を行い、両国の文化に触れ、同じく理学療法を学ぶ学生として多くの経験を得ることができた。

また、本校学生 10 名と教員 1 名が 2026 年 3 月に CUP を訪問し、両国の文化や、学術についての発表を行い、引率教員も専門分野の学術発表を行った。学生たちは CUP 学生の自宅にホームステイし、寝食を共にしながら異文化に触れ、親交を深めた。

コロナ禍以前の交流事業が完全に復活し、これからも継続していく基盤が再構築された。2026 年度は作業療法学科の交流先である、春海保健大学 (Choonhae College of Health Sciences : CCHS) から学生と教授が来校し、国際交流事業を行う予定である。